

2021年5月期 決算説明資料

2021年7月



 **室町ケミカル株式会社**
(証券コード：4885)

- **会社紹介**
- **2021年5月期 決算概要**
- **業績予想と中期経営計画**
- **各事業の開発の取り組みご紹介**
- **参考資料**

会社紹介



会 社 名	室町ケミカル株式会社 (MUROMACHI CHEMICALS INC.)
代 表 者	代表取締役社長 青木 淳一
設 立	1947年7月 (創立：1917年1月)
資 本 金	143,172千円
本 社	福岡県大牟田市新勝立町1丁目38番5
従 業 員	195名 (2021年5月末現在)
事 業 内 容	<p>医薬品原薬の製造・販売 健康食品の企画・製造・販売 イオン交換樹脂の販売・加工 給排水処理装置の設計・販売 尿素水(AdBlue®)の製造・販売 機能性接着剤の製造・販売</p>
拠 点	<p>工 場：福岡県大牟田市 (本社工場)、茨城県下妻市 支 社：東京都千代田区 営 業 所：大阪府大阪市淀川区 開発センター：埼玉県和光市</p>



創立当時 (1917年頃)



大牟田市 本社工場

化学技術を活かして3つの事業を推進

医薬品事業

原薬の輸入・製造・分析・加工までのトータルソリューションを提供

医薬品合成



原薬の製造



海外から輸入した原薬の異物除去・精製

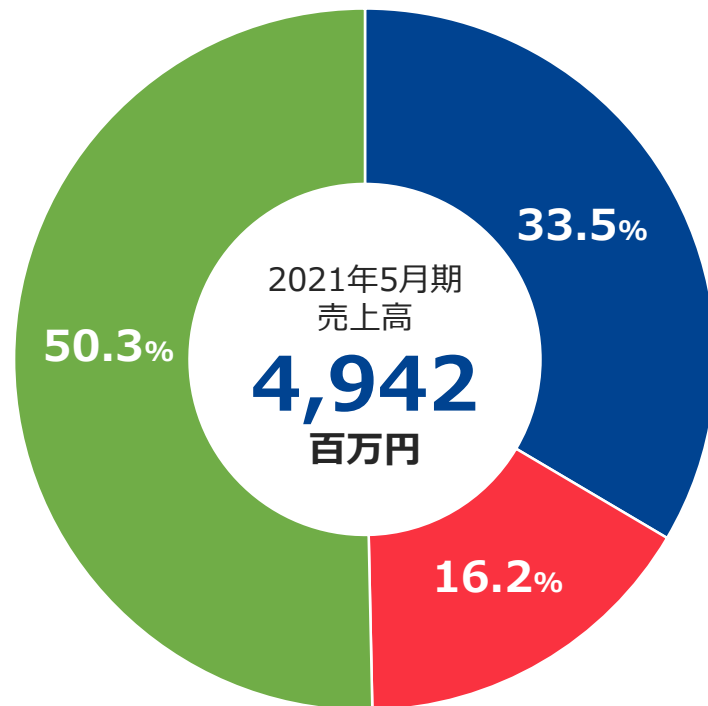
輸入原薬



国内製薬会社の求める原薬の調達

その他

ラジオアイソトープ (標識化合物) の輸入販売や保管



健康食品事業

幅広い技術を組み合わせ、メーカーが求める“おいしさ”を具現化



スティックゼリー



Tパウチゼリー

化学品事業

高い分離技術で液体から不純物を取り除く



イオン交換樹脂



イオン交換樹脂再生設備



分離膜

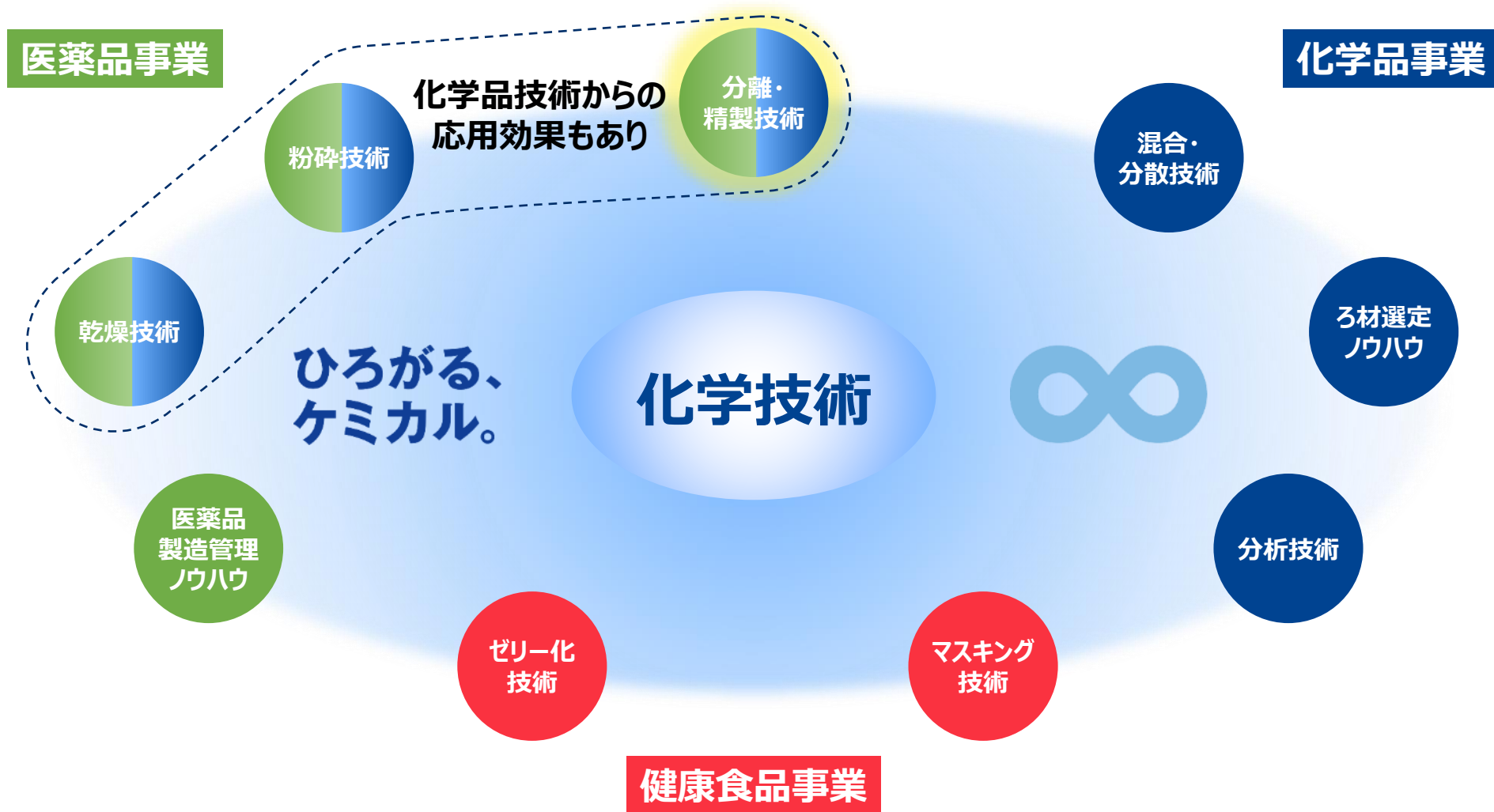


分離膜洗浄設備

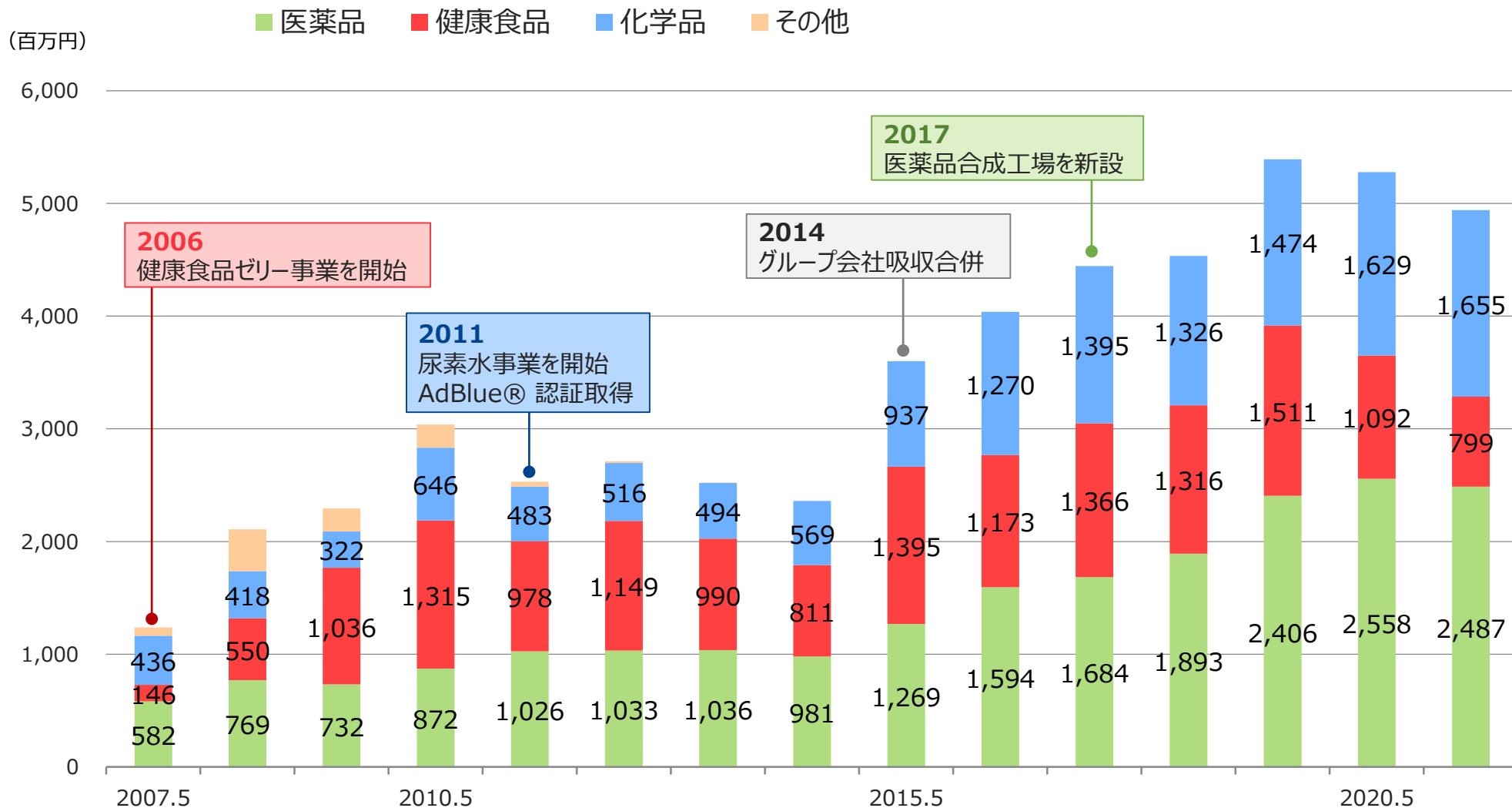


水処理装置

3事業で有する幅広い技術・ノウハウが競争力の源泉



売上高（単体）の推移



2021年5月期 決算概要



2020年5月期

2021年5月期 (前期比)

売上高	5,280百万円	4,942百万円	△337百万円 △6.4%
経常利益	278百万円	339百万円	61百万円 21.9%
経常利益率	5.3%	6.9%	
減価償却費	218百万円	124百万円	△93百万円 △43.0%
設備投資額	65百万円	35百万円	△29百万円 △45.8%
配当金 配当性向	0.6円/株 3.5%	15円/株 23.0%	

- ・ 医薬品事業は公的機関への申請における承認遅れの影響、健康食品事業は終売・撤退製品の影響が大きく、減収となったが利益率は改善
- ・ 化学品事業は既存案件（半導体製造関連、医薬品製造関連）のイオン交換樹脂販売増加により増収
- ・ 営業利益では管理費配賦の変動影響があるが、管理費を除く事業部門利益は3事業とも増益

(百万円)

		2020年5月期		2021年5月期		前期比	
			構成比		構成比		増減率
売上高	医薬品事業	2,558	48.5%	2,487	50.3%	△71	△2.8%
	健康食品事業	1,092	20.7%	799	16.2%	△292	△26.8%
	化学品事業	1,629	30.9%	1,655	33.5%	26	1.7%
営業利益	医薬品事業	445	148.1%	474	128.5%	28	6.4%
	健康食品事業	△102	△33.9%	△44	△12.0%	57	—
	化学品事業	△42	△14.2%	△61	△16.6%	△18	—

- 減収となるも、償却負担減などにより原価率は改善し、売上総利益が増加
- 2021年5月期は前期より減損の額が少なかったため、当期純利益が増加

(百万円)

	2020年5月期		2021年5月期		前期比	
		構成比		構成比		増減率
売上高	5,280	100.0%	4,942	100.0%	△337	△6.4%
売上原価	3,695	70.0%	3,291	66.6%	△404	△10.9%
売上総利益	1,584	30.0%	1,651	33.4%	66	4.2%
販売費及び 一般管理費	1,285	24.4%	1,282	25.9%	△3	△0.3%
営業利益	301	5.7%	369	7.5%	68	22.7%
経常利益	278	5.3%	339	6.9%	61	21.9%
当期純利益	34	0.7%	180	3.7%	146	425.5%

- 上場による資金調達の結果、自己資本比率が大きく増加
- 設備投資予定の調達金はコミットメントラインの空枠を作ることで運用（支払利息の低減）

(百万円)

	2020年5月期	2021年5月期	増減	主な増減要因
流動資産	3,469	3,494	24	
固定資産	1,316	1,117	△198	建物△107 機械及び装置△95
資産合計	4,785	4,612	△173	
流動負債	3,179	2,114	△1,064	短期借入金△800
固定負債	1,353	1,163	△190	
負債合計	4,533	3,278	△1,255	
純資産合計	252	1,334	1,081	資本剰余金+683 利益剰余金+179 自己株式処分+131
負債純資産合計	4,785	4,612	△173	
自己資本比率	5.3%	28.9%	23.7pt	

- 株式上場による資金調達と借入金の一部返済を実施
- 前期末よりキャッシュは増加

(百万円)

	2020年5月期	2021年5月期	2021/5期の主な収支
営業活動による キャッシュ・フロー	88	488	税引前当期純利益+199 減損損失+136 減価償却費+124
投資活動による キャッシュ・フロー	136	△58	有形固定資産の取得による支出△55
(フリー キャッシュ・フロー)	225	429	
財務活動による キャッシュ・フロー	42	△310	短期借入金の減少△800 長期借入金の返済△405 自己株式処分・新株発行+898
現金及び現金同等物の 増減額	266	119	
現金及び現金同等物の 期首残高	613	880	
現金及び現金同等物の 期末残高	880	1,000	

※2020年5月期は連結キャッシュ・フロー計算書の数値

業績予想と中期経営計画



- 売上高は各セグメントとも堅調に推移すると予想
- 前期発生した特別損失（減損）は当期見込まず、当期純利益増加

(百万円)

	2021年5月期		2022年5月期予想		前期比	
		構成比		構成比		増減率
売上高	4,942	100.0%	5,172	100.0%	229	4.6%
営業利益	369	7.5%	403	7.8%	33	9.2%
経常利益	339	6.9%	381	7.4%	42	12.5%
当期純利益	180	3.7%	332	6.4%	152	84.3%
配当金（円/株）	15.0	—	19.0	—	4.0	26.7%
減価償却費	124	—	107	—	△16	-13.2%
設備投資額	35	—	150	—	115	326.2%

医薬品 事業

売上高

2021年5月期
2,487百万円



2022年5月期
2,592百万円

- 輸入原薬の取引量増加により売上増の見込み
- 認知度向上により開発引き合いは増加傾向、更なる増加と加速促進

健康食品 事業

売上高

2021年5月期
799百万円



2022年5月期
829百万円

- ゼリーに注力した事業展開、売上回復によりセグメント利益黒字化の見込み
- 自動化設備の導入により、生産増に伴うコスト増を抑制

化学品 事業

売上高

2021年5月期
1,655百万円



2022年5月期
1,750百万円

- 化粧品関連製品で売上減の見込み、新規樹脂販売で巻き返しを図る
- 確度の高い装置案件が複数あり、装置関連は売上増の見込み

2021年5月期

2024年5月期 目標

売上高

4,942百万円

5,800百万円

経常利益

339百万円

480百万円

経常利益率

6.9%

8%以上

ROA

3.8%

5%以上

配当性向

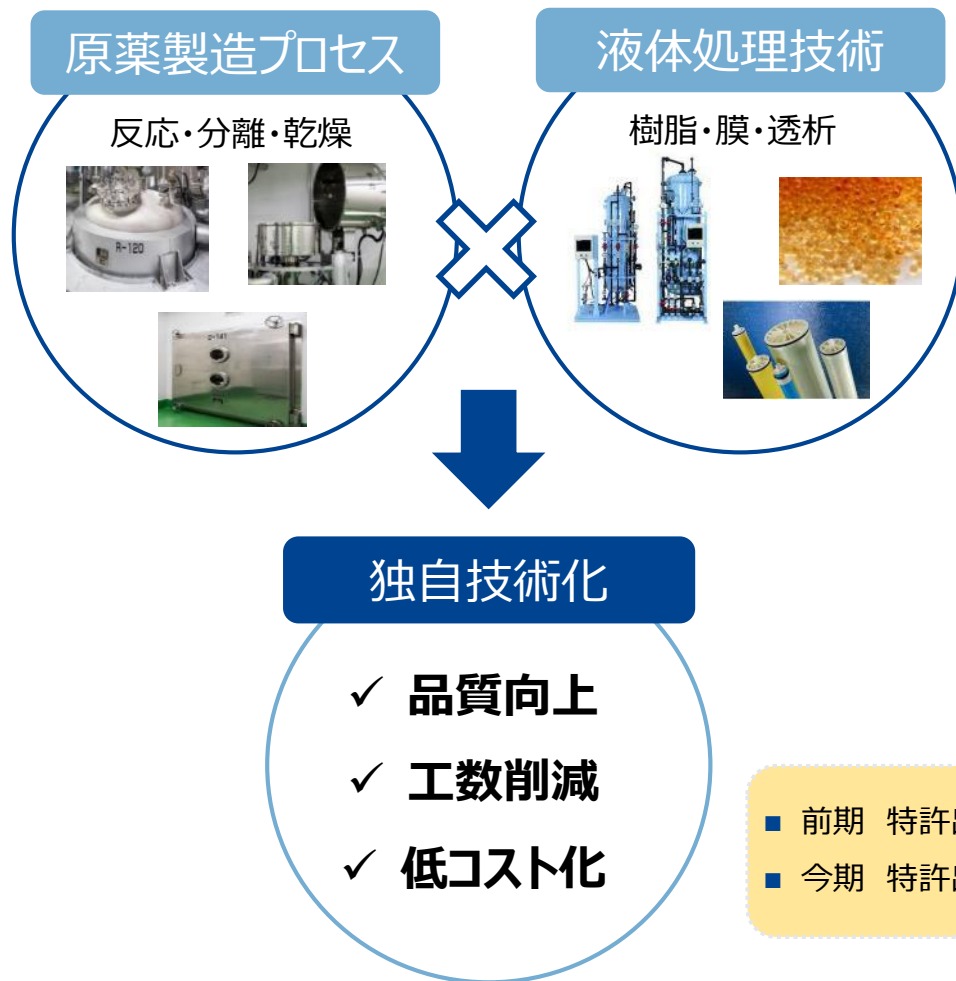
23.0%

20%以上

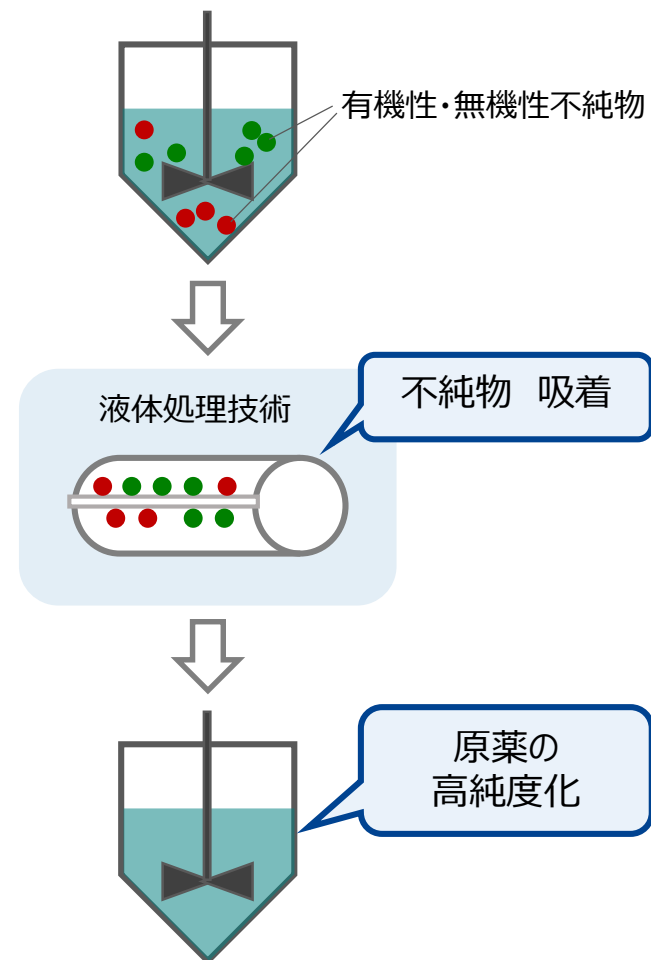
各事業の開発の取り組みご紹介



- 化学品事業で培った液体処理技術を原薬製造プロセスへ応用展開し、当社独自の原薬精製技術の開発



活用例 (原薬精製)



- ODMへの集中により売上回復、Tパウチ・ショットの案件開拓
- 訴求力のある成分を配合した製品開発で、複数の大型案件立ち上げを目指す

新包装形態『Tパウチ・ショット』

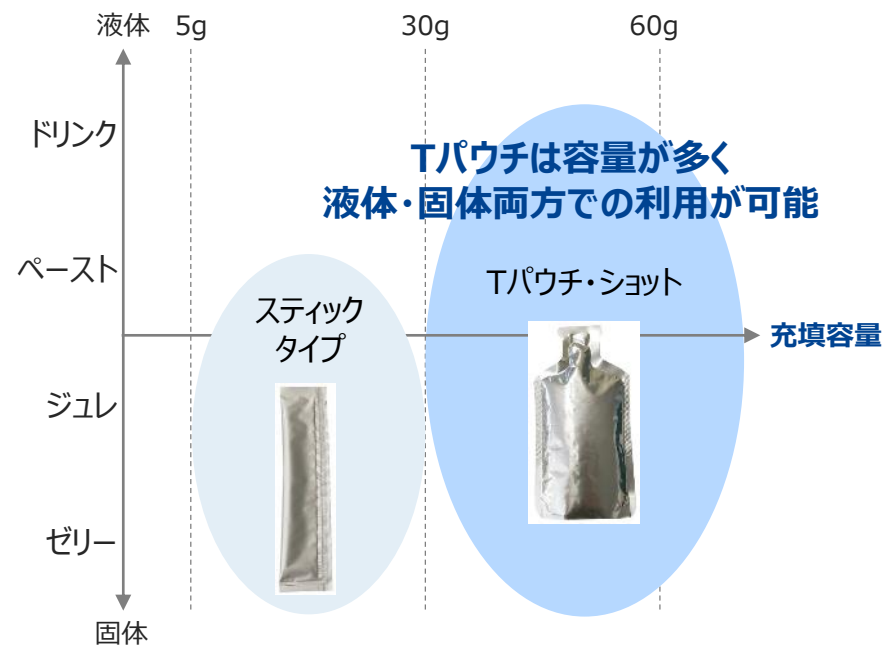


- 1回に摂取できる容量が多い
- 開封しやすい
- こぼれにくい

スティックタイプでは
必要成分を摂取するのに
不足していた領域を取り込む



スティックタイプに比べ機能性原料の配合量を増やす
または複数種の機能性原料を配合することが可能



進行中の開発分野例

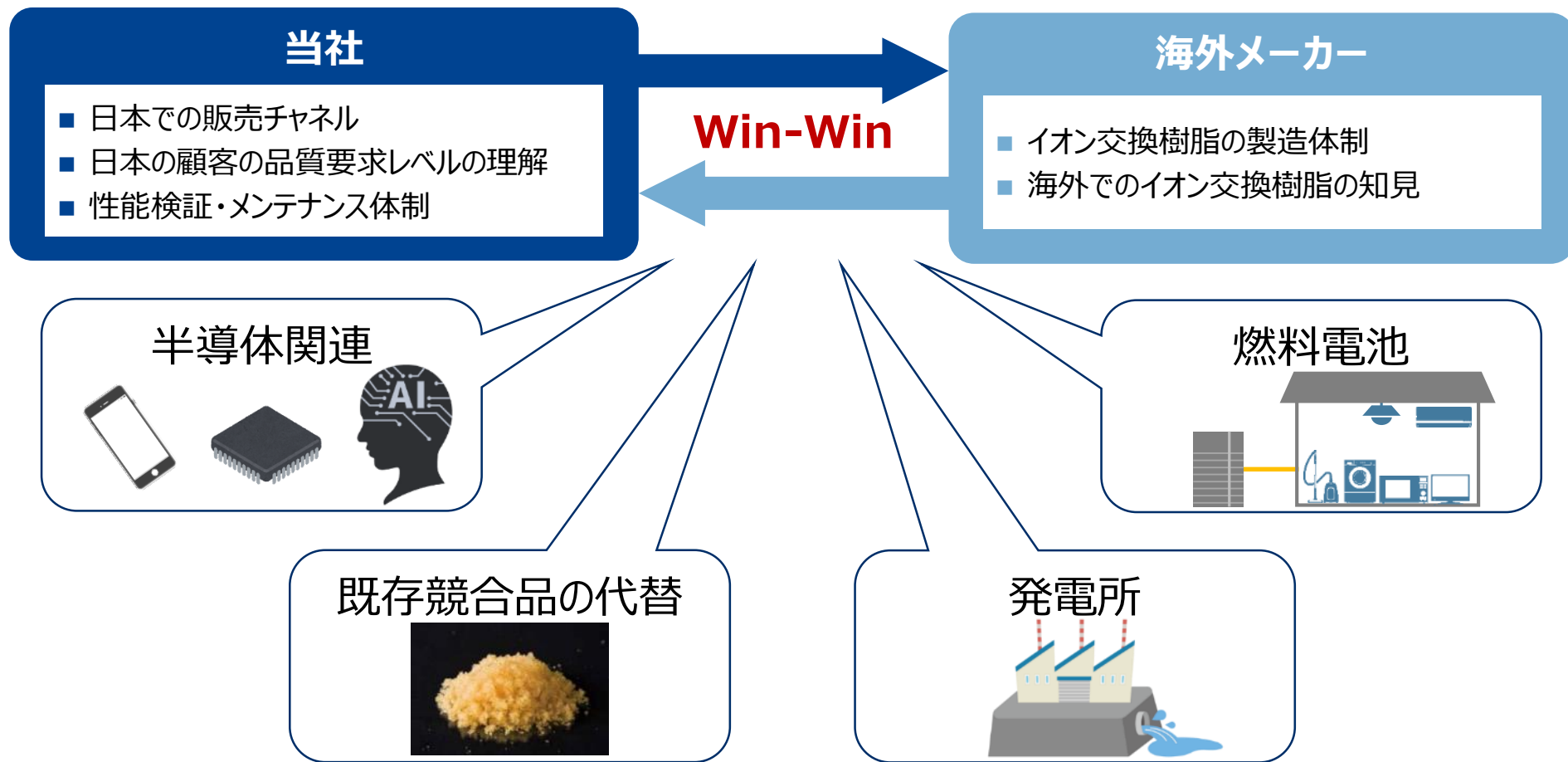
スポーツサプリメントジュレ

ダイエットサポートゼリー

美容系ゼリー

活力サポート系ゼリー

- ・ イオン交換樹脂メーカーとの共同開発の推進
- ・ 燃料電池向け樹脂の横展開、高架橋度樹脂のエネルギー業界などへの展開
- ・ 代替製品の拡販、製品ラインナップ見直しによるコスト低減



・ バイオディーゼル精製装置の開発により環境への取り組み

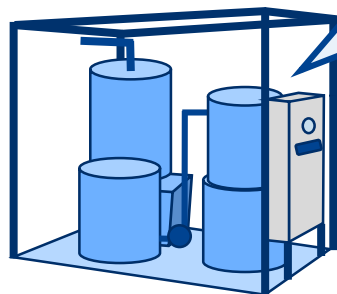
バイオディーゼルとは？

- 廃食油等から製造される軽油代替燃料
- 化石燃料の利用低減・CO2排出削減から地球温暖化対策の1つとして注目されている
- 市バスに使用するなど各自治体も導入に積極的

導入コスト・運転コストが安価で安全性に配慮した
精製装置を開発中

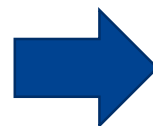


バイオディーゼル

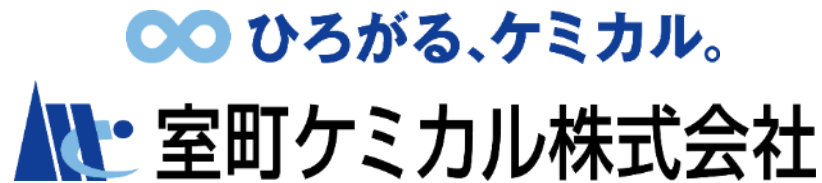


当社精製技術を使用

特許出願 予定



精製バイオディーゼル



<https://www.muro-chem.co.jp/>

本資料に関するお問い合わせ先
室町ケミカル株式会社 経営企画室
TEL : 0944-41-2131
FAX : 0944-41-2133

＜本資料取扱上の注意点＞

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、経営環境の変化等により、予告なしに変更される可能性があります。また、実際の業績等は様々な要因により変動する可能性があります。

掲載の内容については未監査の数値も含まれており、確度を保証するものではありません。また、掲載された情報やその誤りについて、その理由に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。

本資料は投資家の皆様当社をご理解いただくことを目的として当社が作成したものであり、投資勧誘を目的にしたものではありません。投資に関するご決定は皆様ご自身のご判断で行うようお願いいたします。

参考資料



- 明治期** 福岡県須恵町において「須恵目薬」の製造・販売開始
- 1917年** 福岡県直方市に「大洋製薬合資会社」を設立
- 1924年** 福岡市東区に移転『天洋社』と改称
- 1938年** 福岡市南区に移転。
- 1944年** 戦時企業整備（県内の製薬会社を1社にする制度）により会社を解散し、一時廃業
- 1947年** 戦後、「鉄ペプトン製薬有限会社」として再設立
- 1948年** 販売会社として、「株式会社天洋社」を再設立
- 1950年** 「株式会社天洋社」を「鉄ペプトン製薬有限会社」に合併し、社名を「天洋社薬品有限会社」とする。
- 1952年** 社名を「天洋社薬品工業株式会社」と改称
- 1971年** ムロマチグループに参入
- 1996年** 福岡県大牟田市に本社工場を新築移転
- 1998年** 『室町ケミカル株式会社』に社名変更
- 1999年** 医薬品第二工場を新設 ISO9001認証取得
- 2003年** 本社隣接地に物流倉庫新設
- 2005年** 『天洋社薬品株式会社』設立 東京支店開設
- 2006年** 健康食品製造工場操業開始
表面処理工場操業開始
- 2009年** 新事務所竣工
- 2010年** コンパウンド工場操業開始 表面処理事業より撤退
- 2010年** 室町(上海)商貿有限公司設立
- 2011年** 第三医薬品工場新設 尿素水工場操業開始
ムロマチテクノス株式会社より、つくば工場譲受
- 2013年** 新勝立倉庫竣工
東京都千代田区神田駿河台に東京支店を移転
- 2014年** 『東進ケミカル株式会社』の全株式を取得し
100%子会社化
ムロマチテクノス株式会社を吸収合併
- 2016年** つくば工場にインキ接着剤工場を新設
機能性樹脂コンパウンド事業より撤退
大牟田本社に医薬品ゼリー工場を新設
- 2017年** 東進ケミカル株式会社を吸収合併
大牟田本社に医薬品合成工場を新設
- 2018年** 天洋社薬品株式会社を吸収合併
- 2019年** 埼玉工場を閉鎖
- 2020年** 埼玉県和光市に埼玉開発センターを開設
- 2021年** 東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)市場に上場

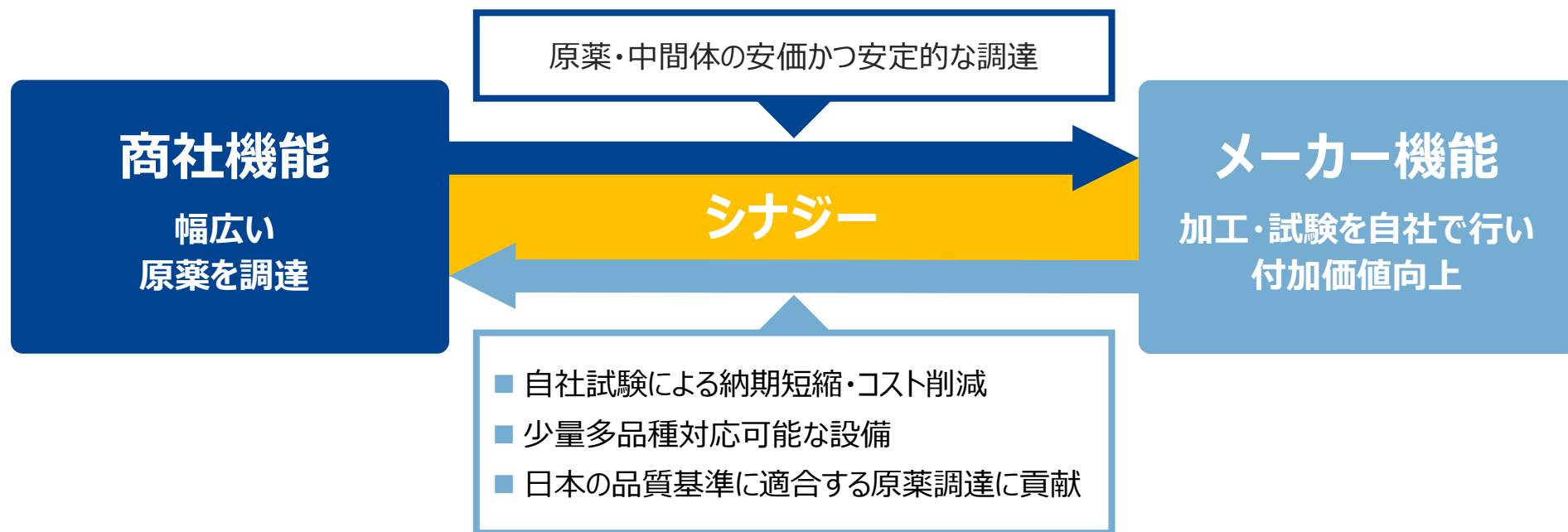
原薬の輸入・製造・分析・加工を手がける、 トータルソリューションカンパニー



当社の主力原薬

製品名	提供方法	効能・用途
ポリスチレンスルホン酸カルシウム	自社製造	高カリウム血症
バラシクロビル塩酸塩	輸入販売	ヘルペスウイルス感染症
バルプロ酸ナトリウム	輸入販売	抗てんかん

商社機能とメーカー機能のシナジーで業界内での地位を確立

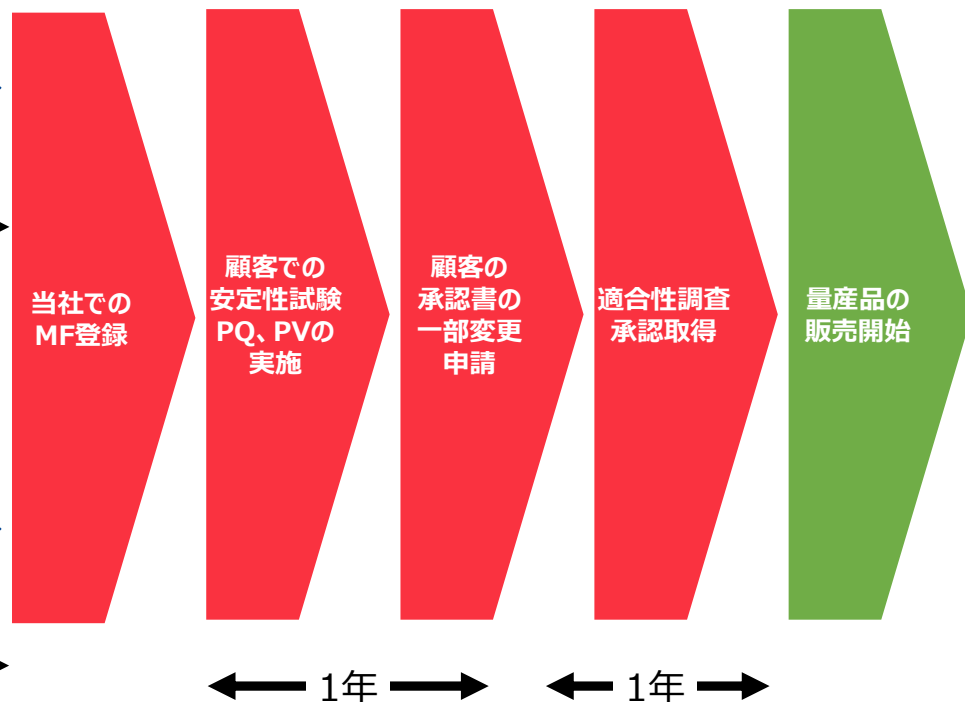


GMP認証が必要で、参入障壁が高い

■ 自社原薬



■ 輸入原薬



販売開始までに長い時間がかかるが、参入障壁が高く安定かつ継続した売上となる

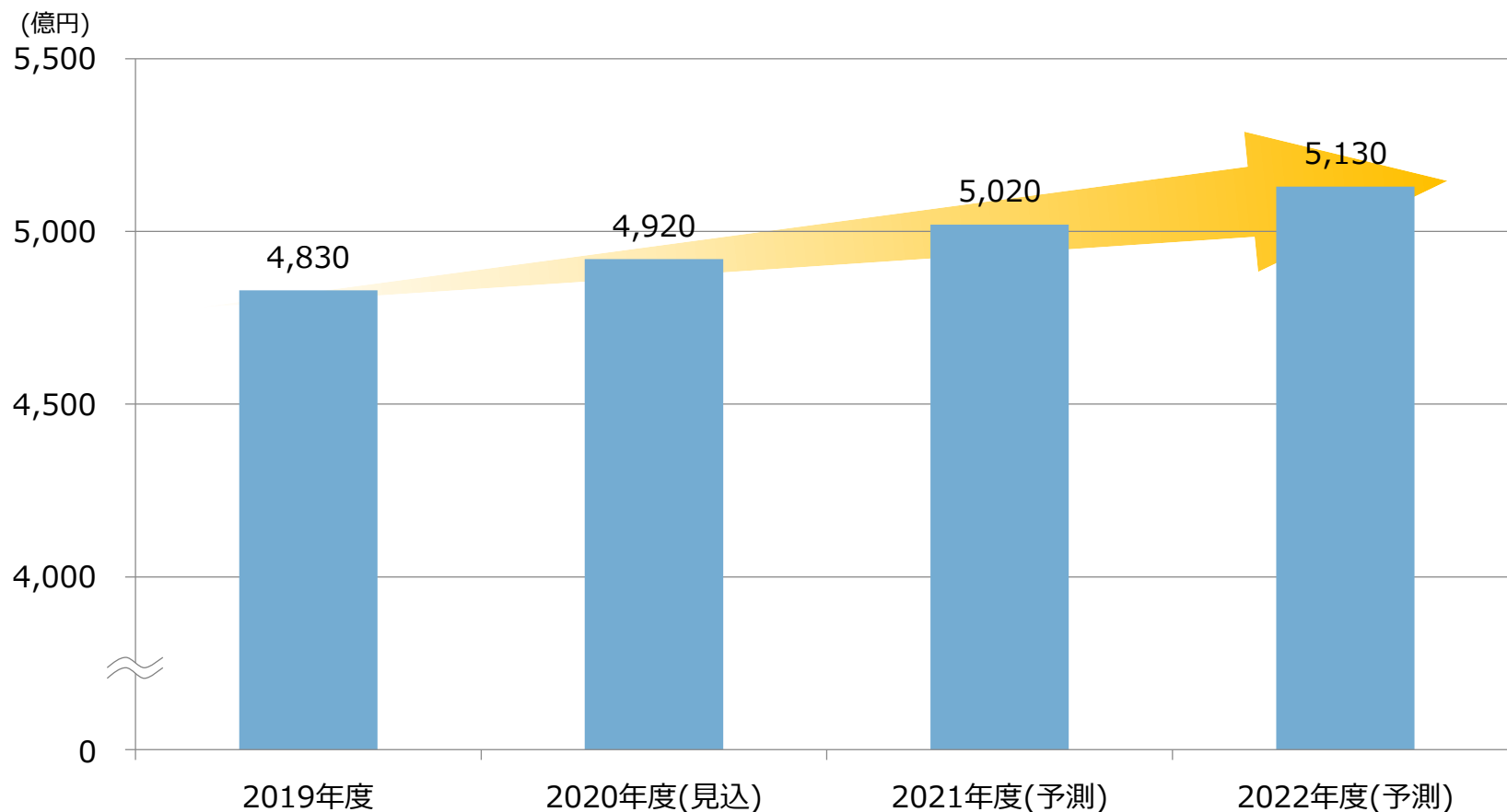
MF登録：原薬等の製造業者が製造方法、品質管理等のデータを原薬等登録原簿（MF）へ登録すること。これにより製剤メーカーへノウハウを開示せず承認申請が行える。

PQ：Performance Qualification（性能適格性確認）製造工程で使用する機器が正確に動いていることを確認、保証すること

PV：プロセスバリデーション 製造プロセスが目的の製品を製造するのに適していることを確認、保証すること

一部変更申請：製造販売承認後に成分分量、製造方法などの内容が変更になった場合に行う

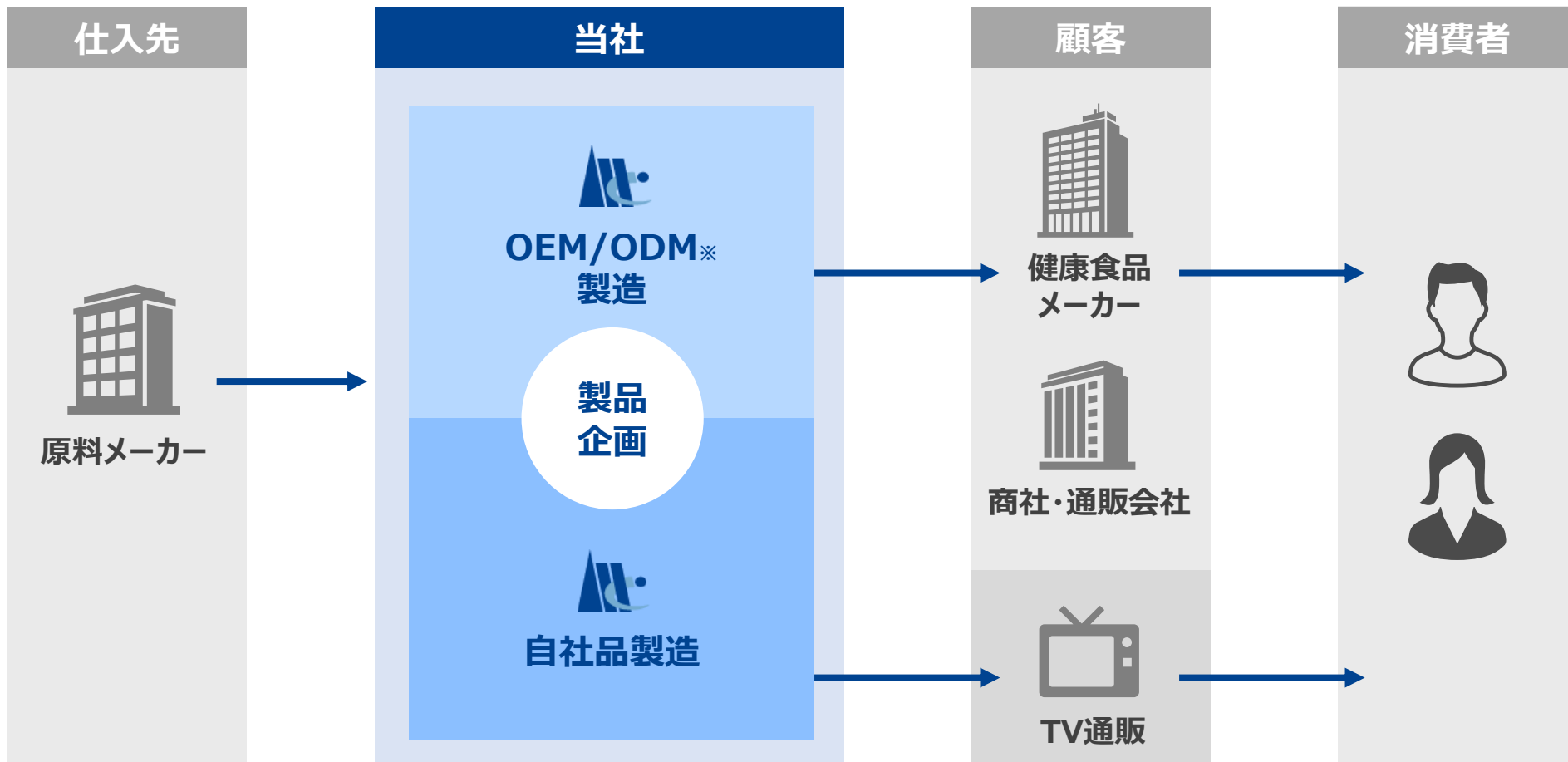
製薬企業の製造部門の外部委託化が進み、 医薬品原薬・中間体市場は成長を継続



出典：TPCマーケティングリサーチ（株）2020年 医薬品原薬・中間体の市場分析調査

企画・設計能力を活かし

顧客が求める“おいしさ”を具現化する提案型企業



※ 発注元企業のブランド名で販売される製品の、生産のみを行うOEM (Original Equipment Manufacturing) に対し、ODM (Original Design Manufacturing) は企画や設計、製造までを行う。

当社の技術力を活かし、開発から量産まで対応可能

ODMのプロセス



クライアントの要望を具現化する
技術力・提案力が売上拡大の必須条件

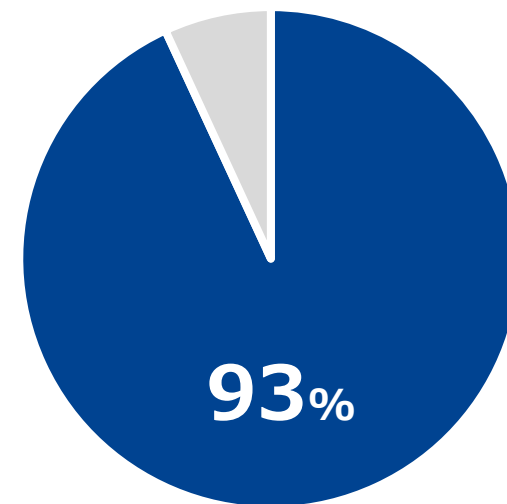
マスキング技術・食感調整力で顧客の要望を具現化



味・香り・食感・色
処方組みのノウハウにより
食べづらさを軽減

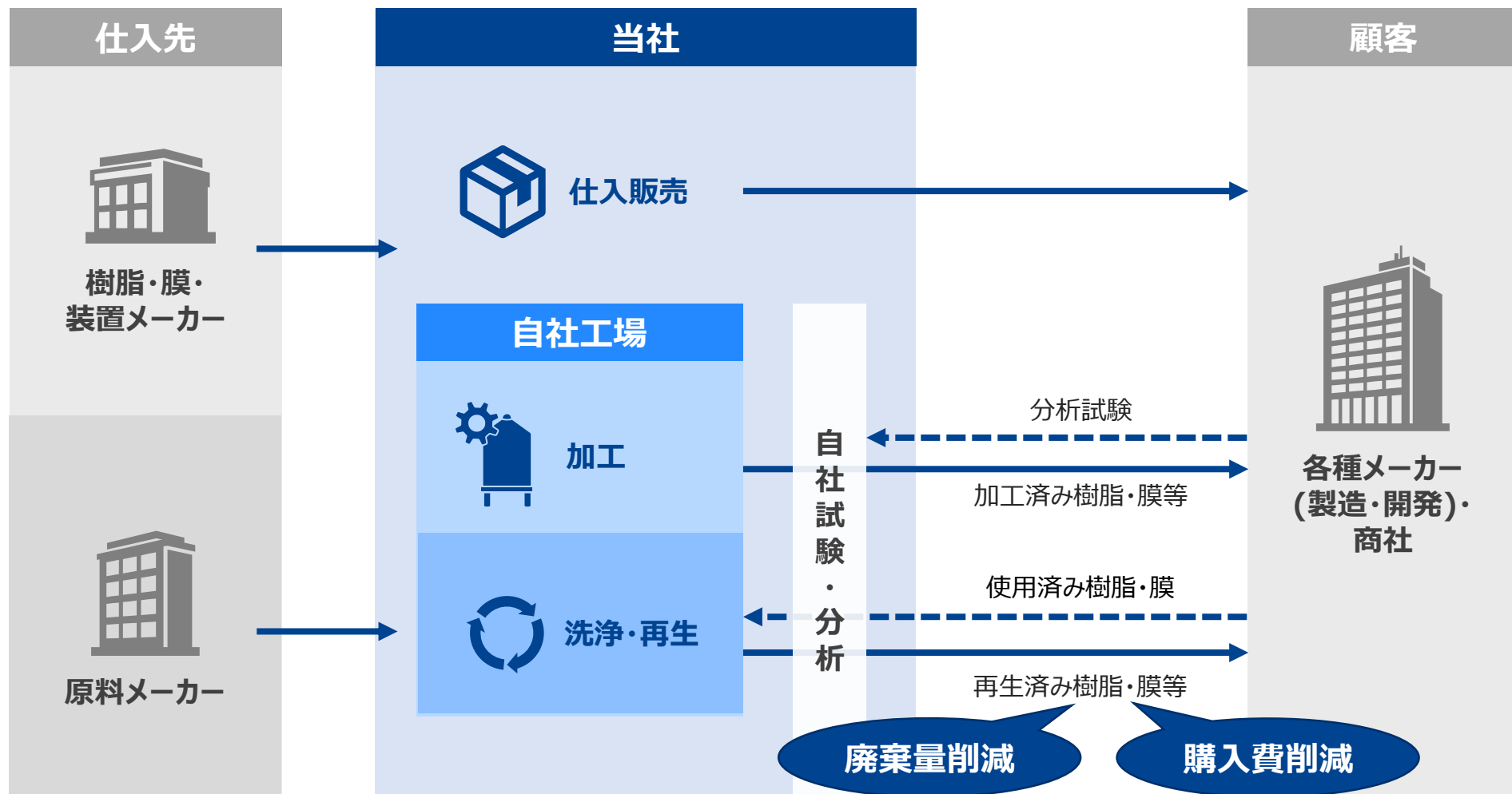


当社がレシピを開発・提案した
製品の割合
(2020年5月期実績)



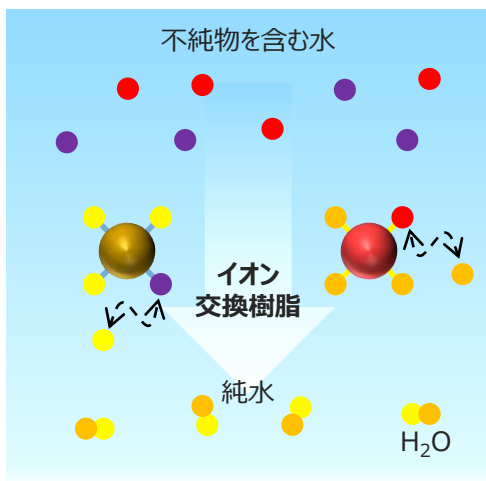
※新規に販売を開始した製品のうち、顧客から
レシピを支給されたものを除いた製品の割合

液体処理関連製品の販売・加工・分析を手がける、ソリューションカンパニー



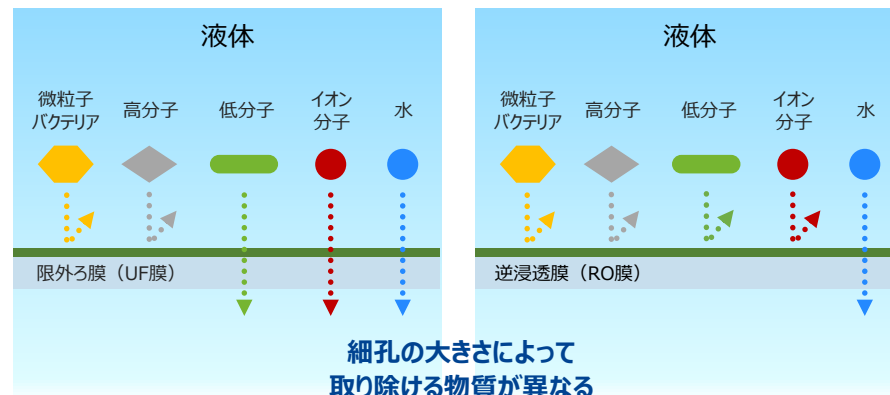
イオン交換樹脂

液体（水など）からイオン成分を取り除き、代わりに元々自分が持っているイオンを離すことで、イオン交換を行う樹脂。



分離膜

分離膜が持つ細孔を利用して、液体中の微粒子やイオン成分などを取り除く。



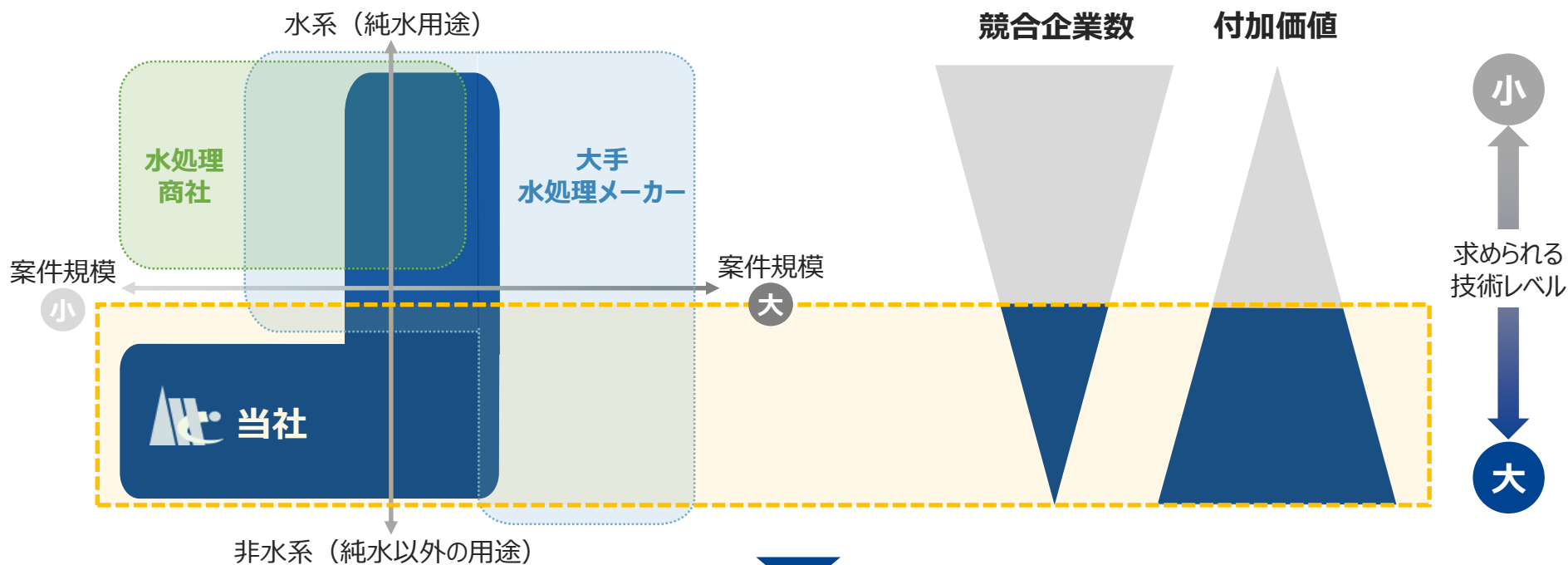
目的に応じて選定・組み合わせ

主な用途	水系（純水の用途）	非水系（水以外の用途）	
	電子部品や 電子回路の基板の洗浄 医薬品や日用品の製造水 食品や飲料の原料水	化学薬品の精製 糖類やアミノ酸の精製	食品中からの脱塩・脱色 廃水中の重金属や 有害なイオンの除去処理

長年の液体処理の経験・実績を活かし、 競合の少ない非水分野での案件獲得が可能

市場規模は **水系6：非水系4**

出典：富士経済（株） 2016年版水資源関連市場の現状と将来展望



当社が強みを持つ**非水領域**は
要求に合わせた**濾材選定などの技術**が求められ、**参入障壁が高い**